



令和 8 年度

水稻の生育概況 vol.2



埼玉県マスコット

「コバトン」

(令和 8 年 7 月 3 日現在)

埼玉県農業技術研究センター

要 約

◎気象概況：6月7日頃の梅雨入り以降、梅雨らしい気象が続き、6月の平均気温は平年比-0.2℃と低く、降水量は184%とかなり多く、日照時間は80%と少なかった。

◎生育状況：寡照の影響で生育は緩慢であるが、ほぼ平年並となっている。

◎今後取るべき技術対策

- ・水 管 理：早植栽培で中干しが未実施のほ場では直ちに実施する。中干しが不完全な場合は、間断かん水の際に田面が露出する期間を長くする。普通期栽培では移植後30日頃を目安に中干しを実施する。
- ・穂 肥：平年に比べ幼穂の分化が早まると予想されるため、葉色等の生育診断を早めに行い、適期に穂肥を実施する。
- ・病虫害防除：イネカメムシ等の斑点米カメムシ類の発生に注意し、ほ場をよく観察し薬剤防除を実施する。出穂期が早まると予想されるため、適期防除に努める。

1 気象の概況

6月の平均気温は、平年並に経過し、月平均では平年差-0.2℃となった。降水量は、上旬の台風6号、下旬の7、8号に加えて梅雨前線の影響で、平年並から多く経過し、月合計では184%とかなり多くなった。日照時間は、6月中旬で多かったほかは少なく経過し、月合計では平年比80%となった。

気象庁が6月29日に発表した速報値によると、関東甲信の梅雨入りは平年並の6月7日頃となった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

5月の高温多照傾向により、茎数や葉位の進展は平年より進んでいたため、6月の平均気温は平年並に経過したものの、移植後60日調査では茎数は平年比107%、葉位は平年差0.4と平年を上回った。6月全体では寡照傾向にあった一方、中旬は多照に推移したこと、6月の気温が平年並であったことから草丈の徒長は抑えられ、平年比96%となった。

移植後60日時点の幼穂長は1.1mm（平年値：1.0mm）となり、気象庁が7月3日に発表した関東甲信地方における向こう1か月予報の気温は平年並から高い見込みから、出穂期は平年（7月25日）並からやや早まると予

想される。

イ 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

6月の平均気温は平年並に経過したため、移植後40日時点における茎数や葉位はおおむね平年並に推移したものの、6月は寡照傾向にあったため、風乾重は平年比86%となった。6月全体では寡照傾向にあった一方、中旬は多照に推移したこと、6月の気温が平年並であったことから草丈の徒長は抑えられ、平年比94%となった。

ウ 普通期栽培（6月25日植 彩のきずな）

育苗期間前半の寡照傾向によって苗は徒長し、平年と比較して移植時の草丈は124%、風乾重は90%となった。草丈が高かったことにより、充実度は0.46小さく、苗質は劣った。しかし、移植後は植え傷みもなく、活着は良好であった。

（2）県内全般

早期・早植栽培では、梅雨入り前までの高温の影響で生育は前進していたが、梅雨入り後は寡照の影響を受けて生育が緩慢となっている。茎数は分げつが盛んで平年より多刈ったことに加え、中干しが徹底できず、弱小分げつの発生が止まらないほ場も見られることから平年並～やや多くなっている。

普通期栽培では、活着は順調だったが、寡照の影響を受けて、分げつの発生は緩慢となっている。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

気象庁が7月2日に発表した関東甲信地方の1か月予報では、暖かい空気に覆われやすいため、気温が高くなる見込みである。降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並の見込みである。

また、6月23日に発表した3か月予報では、7、8月の気温は高い見込みである。

（2）生育予測

ア 早期、早植栽培

気温が高いと予報されていることから、生育は平年より早まり、農業技術研究センターが公開した農作物発育予測アプリ「咲き玉くん」では、出穂期が2～4日程度早まると予測している。

イ 普通期栽培

気温が高いと予報されていることから、生育は回復し、分げつが盛んになると予想される。

4 今後取るべき技術対策

(1) 早期、早植栽培

ア 水管理

早期栽培では出穂期前後各7日間は深水管理とする。その後は根の活力を維持するため間断かん水を行う。

早植栽培で中干しを実施していないほ場では、直ちに実施し無効茎の発生を抑える。中干し後～幼穂形成期までは根の活力を維持するため間断かん水を行う。

梅雨の影響で、中干しが不完全なほ場では、間断かん水の際に田面が露出する期間を長めにする。収穫期になっても土壌が柔らかく刈遅れになる事態や、土壌を固くしようと早期落水を行うこと避けるため、今のうちから少しずつ固くしておく。

かけ流し灌がいは、地域の水不足を招き高温障害の発生を助長する危険があるので行わない。

イ 穂肥

高温障害の軽減には葉色診断に基づく追肥(穂肥)が最も重要であるため、ほ場を良く観察し、早めの対策を講じる。

今後も気温が高く推移すると予報されていることから、平年に比べ出穂期が早まると予想される。このため、幼穂長、葉色等の観察結果に基づき適期を逃さないよう穂肥を施用する。

前述の農作物発育予測アプリ「咲き玉くん」では田植日に応じた出穂期の予測が可能である※。

早植栽培の「彩のかがやき」では、出穂前23～22日頃(幼穂長1～2mmに達した時期)に葉色が葉色版で「4」以下の場合は、窒素成分で3kg/10aを限度に穂肥を施用する。葉色が「4」以上の場合は葉色が低下するまで施用時期を遅らせ、窒素成分で2kg/10a程度に減ずる。また、適期に穂肥を施用した場合でも出穂前10日頃に葉色を確認し、葉色が「4」以下の場合は窒素成分で2kg/10a程度の穂肥を追加する。「コシヒカリ」等で基肥一発肥料を施用している場合でも、穂肥時期に葉色が淡い場合は追肥を検討する。

※農作物発育予測アプリ「咲き玉くん」URL・二次元コード

https://script.google.com/macros/s/AKfycbx7qmIlyG5hiLBBBm0sgdVqWqzTKJUdr7Ijq7ZbbUsXEDbDS08g_ux8WZB64pk4X47D/exec



ウ 病虫害防除

本年は、6月下旬から出穂期を迎えた極早生品種のほ場でイネカメムシの成虫の侵入が確認されている。

出穂期の籾の吸汁加害により収量・品質に甚大な被害を及ぼすことから、出穂期を基準とした防除を行う。出穂が早まる可能性が高いことから、防除適期を逃さず実施する。

本年は中干しが不十分なため、弱小分げつの発生がみられる。弱小分げつ

は早期に発生した強い分げつよりも出穂が遅れるため、同一ほ場内でイネカメムシが吸汁可能な期間が長期化し、斑点米（着色粒）の発生率が高まる危険性があるため、必ず防除を行う。

農産物安全課では県内50地点でイネカメムシの発生状況を週1回調査し、その調査結果や防除対策資料をホームページで提供している。

（農産物安全課HP：[イネカメムシについて - 埼玉県](#)）

エ 雑草防除

後発の雑草が散見される。雑草が多発した場合は、草種に合わせた中・後期除草剤を適期に散布するとともに、クサネムなどの大型種子の雑草は玄米調製時に選別できないため収穫前に取り除く。

また、特定外来生物の「ナガエツルノゲイトウ」が県内で発生している。水田内や畦畔に定着すると防除が困難となるため、ほ場の水口周辺を重点に観察し、早期発見と早期防除を心掛ける。

（ナガエツルノゲイトウ情報：[埼玉県HP：ナガエツルノゲイトウについて](#)）

（2）普通期栽培

ア 水管理

移植後30日頃を目安に中干しを実施する。高温の影響により分げつの発生が進むと予想されることから、ほ場を観察し有効茎数を確保したら速やかに小ひびが入る程度に中干しを実施する。過剰分げつは物理的に風通しが悪くなり紋枯病等のリスクが高まるとともに、株の中で生育差が発生し、出穂のばらつきにつながる。また、穂数が増えて籾数過多になると、登熟期の気象状況によってはふるい下米が増えたり、乳白米など玄米の品質低下が発生するおそれがある。

中干し後は間断かん水を励行し根の活力維持に努める。

麦わら等の有機物の急激な分解に伴うガス害が見られる場合は、田面を露出させてガス抜きを行う。除草剤を散布している場合は、散布後1週間経過してから落水する。田面の露出により除草剤の効果が低下した場合は後述の中・後期除草剤の散布を検討する。

イ 穂肥

「彩のかがやき」では、出穂前25日頃（幼穂長0.5～1 mm）に葉色が「4」以下（葉色板）の場合は窒素成分で3 kg/10aを限度に穂肥を施用する。葉色が「4」以上の場合は低下するまで施用時期を遅らせ、「4」以下に低下してきたら窒素成分を2 kg/10a程度に減じて施用する。

また、適期に穂肥を施用した場合でも出穂前10日頃に葉色を確認し、葉色が「4」以下の場合は窒素成分で2 kg/10a程度穂肥を追加する。

ウ 病害虫防除

イネカメムシに加え、クモヘリカメムシ等の斑点米カメムシ類の発生地域が拡大しており、被害の発生が懸念される。出穂前から水田及び周辺のヒエなどのイネ科雑草を観察し発生が確認されたら、前出の防除対策資料を参考

に防除を検討する。

また、イネ縞葉枯病等を媒介するヒメトビウンカが、昨年に引き続き過去10年で2番目に高い生息密度となっている。「キヌヒカリ」等の罹病性品種では必要に応じて薬剤防除を検討する。

エ 雑草防除

雑草が多発した場合は、草種・葉齢に合わせた除草剤（中・後期剤）の適期散布を行う。用水量が少なく、湛水が維持できない場合は、中干し時期に合わせて落水茎葉処理タイプの除草剤を使用する。

解析・考察に用いた具体的数字

1 気象表（熊谷気象台日別測定値から集計）

6月											
半旬	平均気温(℃)		最高気温(℃)		最低気温(℃)		降水量(mm)		日照時間(hr)		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	21.6	21.0	26.4	26.4	17.7	16.5	109.5	21.3	17.0	29.1	
2	20.0	21.4	23.9	26.5	17.3	17.2	17.5	26.0	7.7	24.9	
3	22.0	21.9	27.7	26.7	17.7	18.0	25.0	29.2	28.7	21.6	
4	23.4	22.5	28.5	27.1	19.0	18.8	30.0	28.9	32.6	19.9	
5	22.4	23.1	27.0	27.5	19.3	19.5	21.0	26.0	12.1	18.6	
6	23.1	23.9	26.5	28.3	20.4	20.3	72.0	24.8	9.2	18.7	
平均	22.1	22.3	26.7	27.1	18.6	18.3	合計	275.0	149.5	107.3	133.9

注) 半旬数値は熊谷地方気象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は気象台値。

平年値は平成3年～令和2年の気象台値。

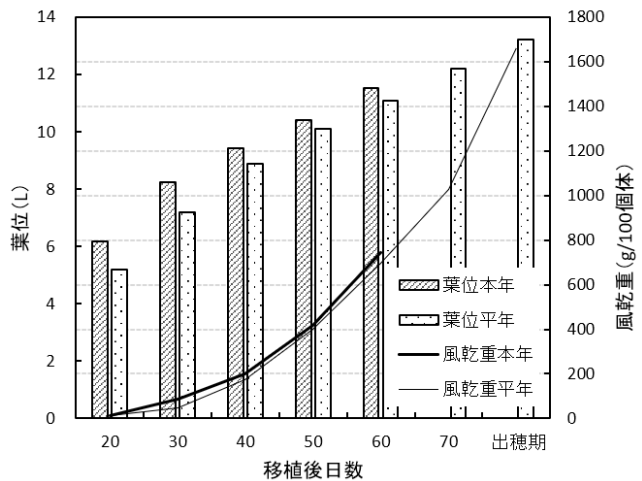
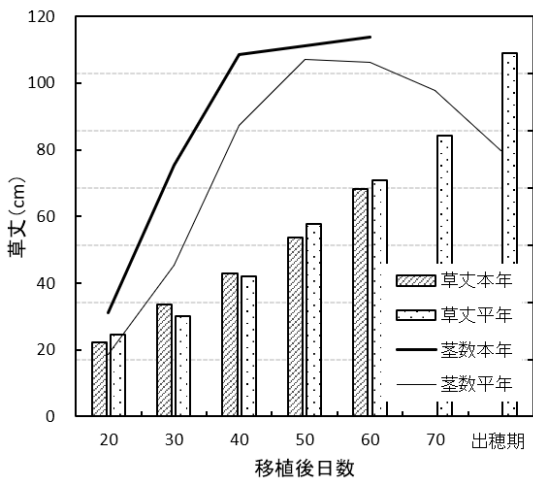
2 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

(1) 本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/10株)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
40	43.0	42.1	102	31.7	25.5	124	9.4	8.9	0.5	201.6	172.1	117
50	53.6	57.7	93	32.4	31.2	104	10.4	10.1	0.3	415.7	398.2	104
60	68.3	70.8	96	33.2	31.0	107	11.5	11.1	0.4	743.8	695.3	107

注) 平年値は平成11年～令和7年の平均(平成22年を除く)。 平年比は%

(2) 生育経過



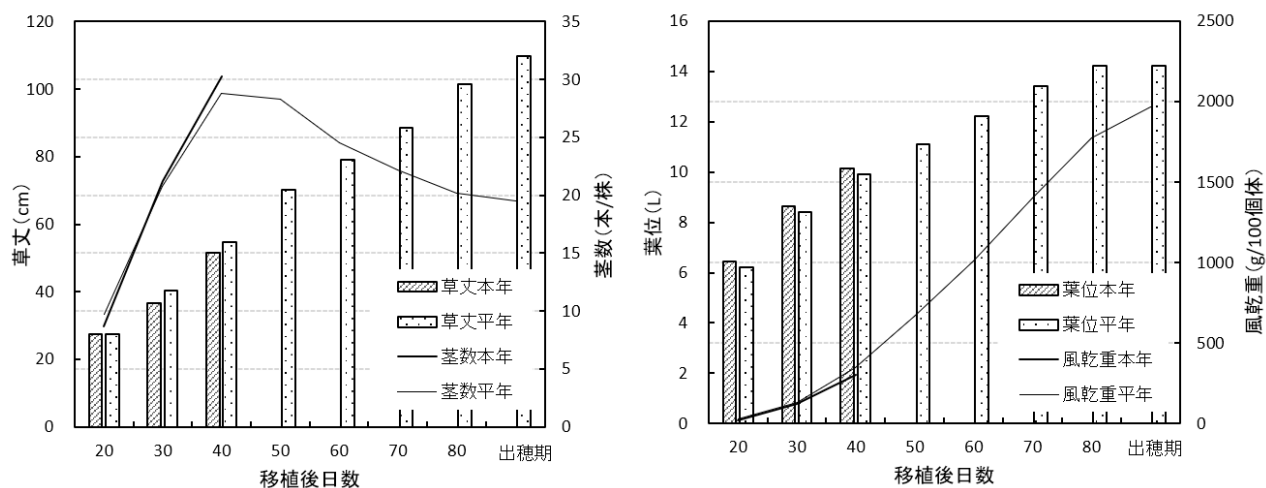
3 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

(1) 本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/10株)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
20	27.6	27.4	101	8.7	9.7	90	6.4	6.2	0.2	20.7	26.5	78
30	36.5	40.4	90	21.2	20.8	102	8.6	8.4	0.2	123.1	132.6	93
40	51.6	54.8	94	30.3	28.8	105	10.1	9.9	0.2	300.7	350.7	86

注) 平年値は平成12年～令和7年の平均。 平年比は%

(2) 生育経過

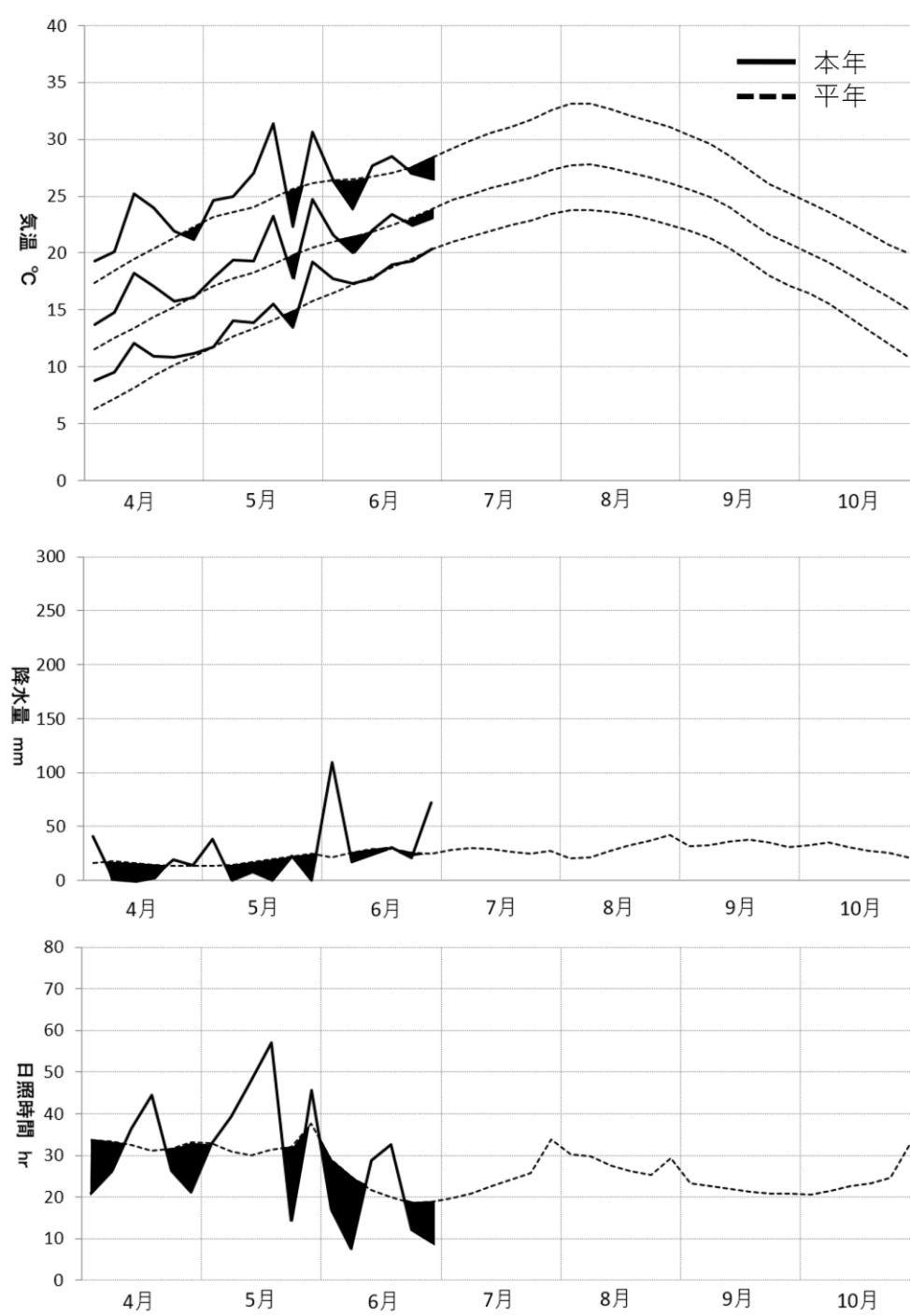


3 普通期栽培（6月25日植 彩のきずな）

(1) 苗質

草丈 (cm)			葉位 (L)			風乾重 (g/100本)			充実度 (mg/cm)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
20.3	16.4	124	3.8	3.5	0.3	2.53	2.80	90	1.24	1.71	-0.46

注) 平年値は平成27年～令和7年の平均。 平年比は%、充実度は風乾重/草丈。



令和 8 年夏作期間気象図
(熊谷気象台日別測定値から作成)